

Shusaku Yamamoto
03/24/04-B51K13
703-205-8000
0399-0130PUSI

171

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日
Date of Application: 2 0 0 3 年 4 月 1 6 日

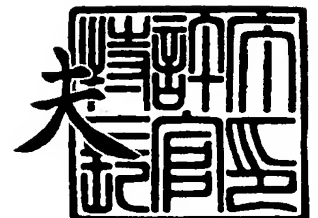
出 願 番 号
Application Number: 特 願 2 0 0 3 - 1 1 1 1 6 9
[ST. 10/C]: [J P 2 0 0 3 - 1 1 1 1 6 9]

出 願 人
Applicant(s): ブランデ株式会社

2 0 0 4 年 2 月 1 0 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今 井 康 夫



出証番号 出証特 2 0 0 4 - 3 0 0 8 3 9 3

【書類名】 特許願

【整理番号】 1504160

【提出日】 平成15年 4月16日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 E06B 9/30

【発明者】

 【住所又は居所】 兵庫県神戸市北区泉台 1 丁目 7 - 1 1

 【氏名】 山本 修作

【特許出願人】

 【住所又は居所】 兵庫県神戸市北区泉台 2 丁目 2 番地の 1 1 - 6 0 2 号

 【氏名又は名称】 ブランデ株式会社

【代理人】

 【識別番号】 100082832

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 森本 邦章

【手数料の表示】

 【予納台帳番号】 053800

 【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

 【物件名】 明細書 1

 【物件名】 図面 1

 【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 防犯用ドア装置

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 施錠具を装着してドアをドア開口枠の側端側に向かって開閉自在に配設した玄関ドア等の防犯用ドア装置であって、

上記ドアの開閉側の内側に所定の狭幅の補助ドアの一側端部を連結するとともに、ドア開口枠の開閉側の側端の内側部に補助ドアの他側端部を連結するようにして、ドアを開くときにドアとドア開口枠との間の開口部に補助ドアが仕切りとなるリンク接続状態でドアが開くようにし、

室内側から室外を視認できるように上記補助ドアを格子戸状等に形成したことを特徴とする防犯用ドア装置。

【請求項 2】 補助ドアの両側端部をドアの一側端部とドア開口枠の一側端部にそれぞれ回転可能に連結するとともに、補助ドアの一側端部をドアの開閉に対応して開閉可能にドアの一側端部またはドア開口枠の一側端部に摺動可能に配設した請求項 1 に記載の防犯用ドア装置。

【請求項 3】 補助ドアを折り畳み可能に形成して、この補助ドアの両側端部をドアとドア開口枠の一側端部にそれぞれ回転可能に連結した請求項 1 に記載の防犯用ドア装置。

【請求項 4】 補助ドアの一側端部をドアの一側端部またはドア開口枠の一側端部に着脱可能に配設するとともに、補助ドアの幅を宅配便等の配送物の大きさよりもやや広く形成し、この補助ドアの一部に荷受け用の開閉窓を開閉可能に配設した請求項 1 ないし 3 のいずれかに記載の防犯用ドア装置。

【請求項 5】 ドアの施錠具のピッキングを防止するために、ドアの施錠具をロックング状態とするロック具を補助ドアに配設した請求項 1 ないし 4 のいずれかに記載の防犯用ドア装置。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明が属する技術分野】

本発明は、建物分野におけるマンションや一戸建て、その他の玄関ドア等

の防犯用ドア装置に関するものである。

【 0 0 0 2 】

【従来の技術】

近年、宅配や訪問販売と装ってマンションや一戸建て等の家を訪問し、一旦玄関ドアを開けると不要な来訪者を追い返すことが困難となったり、ときとして強盗の危険に合うこともある。

【 0 0 0 3 】

そのため、玄関ドアのドアスコープやテレビカメラ等で来訪者を確認することも実施されているが、来訪者の全体像の確認が容易かつ十分にできず、またドアチェーンでのドアの開きではドアとドア開口枠との開口部が僅かなので、配送物等を受け取ることができずに、ドアを開けなければならなくなり、防犯対策が難しいことの原因になっていた。

【 0 0 0 4 】

【先行技術文献】

そのため、玄関ドアの防犯に関して特許調査を行った。その結果、特開平 9 - 3 1 7 3 4 号公報、特開平 1 0 - 2 2 7 1 8 6 号公報が検索された。

【 0 0 0 5 】

前者の特開平 9 - 3 1 7 3 4 号公報では、外側ドアと一体になって解放し得る内側ドアを備えて、来訪者に対して内側ドアだけの開放で対応できるようにした防犯用二重ドアが提案されている。また、後者の特開平 1 0 - 2 2 7 1 8 6 号公報では、ドア本体の中央部に開口部を開口し、この開口部に室内側から開閉する補助扉を設け、補助扉を開いて郵便物や荷物を受け取りすることが提案されている。

【 0 0 0 6 】

【発明が解決しようとする課題】

しかし、両者ともドアに開口して内側ドアを配設するため、新規なドアには対応できても、既設のドアには対応することが難しく、またドアを開いて安全に来訪者の全体像を容易にかつ十分に確認して対応することができるものでなかった。

【 0 0 0 7 】**【課題を解決するための手段】**

本発明は、上記のような点に鑑みたもので、上記の課題を解決するために、施錠具を装着してドアをドア開口枠の側端側に向かって開閉自在に配設した玄関ドア等の防犯用ドア装置であって、上記ドアの開閉側の内側に所定の狭幅の補助ドアの一側端部を連結するとともに、ドア開口枠の開閉側の側端の内側部に補助ドアの他側端部を連結するようにして、ドアを開くときにドアとドア開口枠との間の開口部に補助ドアが仕切りとなるリンク接続状態でドアが開くようにし、室内側から室外を視認できるように上記補助ドアを格子戸状等に形成したことを特徴とする防犯用ドア装置を提供するものである。

【 0 0 0 8 】**【発明の実施の形態】**

本発明の防犯用ドア装置は、施錠具を装着してドアをドア開口枠の側端側に向かって開閉自在に配設した玄関ドア等の防犯用ドア装置であって、上記ドアの開閉側の内側に所定の狭幅の補助ドアの一側端部を連結するとともに、ドア開口枠の開閉側の側端の内側部に補助ドアの他側端部を連結するようにして、ドアを開くときにドアとドア開口枠との間の開口部に補助ドアが仕切りとなるリンク接続状態でドアが開くようにし、室内側から室外を視認できるように上記補助ドアを格子戸状等に形成したことを特徴としている。

【 0 0 0 9 】

防犯用ドア装置 1 は、図 1 (a)、(b) のように玄関用等のドア 2 とそのドア開口枠 3 とに補助ドア 4 を連結し、来訪者が来てドア 2 を開けても補助ドア 4 で室外側と室内側とを仕切れて防犯に対処できるようにしている。

【 0 0 1 0 】

上記補助ドア 4 は、図 1 (a)、(b) のように宅配便等の配送物よりもやや幅広い所定の狭幅のものとしていて、剛性の枠体 5 に少なくとも上半分が格

子やルーバー 6 等を設けて室内側から室外を視認できる格子戸状等の防犯がはかれる構造とするのが好ましい。また、特に下半分側に宅配便等の配送荷物の荷受け用の開閉窓 7 を内側から開閉可能に設けるのが好ましい。

【0 0 1 1】

この補助ドア 4 は、図 1、図 2 のようにその両側端の上下に軸支部 8、9 をそれぞれ突設し、ドア 2 の開閉側の側端の内側部およびドア開口枠 3 の開閉側の側端の内側部の上下に係止用軸受部 1 0、1 1 をそれぞれ設けて、上記した軸支部 8、9 を嵌装して補助ドア 4 を連結するようにしている。

【0 0 1 2】

そして、図 1、図 2 のようにドア 2 の上下部に所定の長さのスライドガイド 1 2、1 3 を配設して、上記したドア 2 側の係止用軸受部 1 0、1 1 を摺動可能に装着し、図 1 (a) のようにドア 2 の開閉に対応して補助ドア 4 をドア 2 とドア開口枠 3 との間の開口部 1 4 を仕切り状態に位置するようにし、ドア 2 を開けても補助ドア 4 で室内側と室外側を確実に仕切れて防犯の役割を果たせるようにしている。

【0 0 1 3】

なお、係止用軸受部 1 0、1 1 を円柱形状として転動可能にスライドガイド 1 2、1 3 に嵌装するのが好ましいが、省略することも可能である。また、スライドガイド 1 2、1 3 には、補助ドア 4 の開閉量を制限したり、調整する位置ストッパーを配設して、補助ドア 4 の開閉量を調整するようにできる。

【0 0 1 4】

また、上記補助ドア 4 の一側端側の軸支部 8、9 を、図 3 のように係脱レバー 1 5 に連動するようにリンク接続し、係脱レバー 1 5 の操作で、ドア開口枠 3 の係止用軸受部 1 0、1 1 に係脱可能として、この係止用軸受部 1 0、1 1 との係止状態を解除したときにはドア 2 を従来と同じようにドア開口枠 3 に開閉自在にできるようにしている。その際、補助ドア 4 を適宜の係止部（図示せず）等を介してドア 2 に係止しておくようにするのが好ましい。なお、補助ドア 4 のドア 2 の施錠用のノブ 1 6 との衝突部分については、図 1、図 2 のように切欠部 1 7 を設けるなど適宜の手段を抗じることができる。

【0015】

またさらに、図4（a）のようにドア2の施錠具18の内側の施錠部19に施錠部19を挟持してロック状態とするロック具20を補助ドア4に摺動自在や旋回自在に配設し、ドア2の施錠具18のピッキング防止をはかれるようにして、より防犯手段を抗じることでもある。なお、施錠部19を挟持できない場合には、施錠部19にカバーをしたりするなど、有効な適宜の手段を施すことができる。

【0016】

図4（b）のようにロック具20をモーター等のオートロック部21を配設して、ドア2の外部から遠隔制御でコントローラー22を駆動してロック具20をロック状態としたり、ロック解除するようにすることもできる。

【0017】

図5（a）、（b）は、上記した補助ドア4について、その摺動用のスライドガイド12、13をドア開口枠3側の側壁23側に配設したもので、このように必要に応じてドア側またはドア開口枠側を摺動可能に配設するようにできる。

【0018】

また、図6（a）、（b）は、上記した補助ドア4の上下部にスライドガイド12、13を設け、ドア開口枠3側に軸支部8、9をスライドガイド12、13に対抗して係脱可能に配設し、図5（c）のように補助ドア4のスライドガイド12、13をドア開口枠3側に軸支部8、9に係合して補助ドア4を仕切り状態とするようにしたものである。

【0019】

また、図7（a）、（b）は、補助ドア4を折り畳み可能に形成して、この補助ドア4の両側端部を上記のようにドア2の開閉側の側端部およびドア開口枠3の内側部の上下の係止用軸受部10、11に装着（一側端部は着脱可能に）するようにしたものである。

【0020】

また、図8は、補助ドア4をロールシャッターのようなフレキシブルな構

造として、ドア開口枠 3 の内側部にロールシャッター状の補助ドア 4 を巻回して縦状に配設し、この補助ドア 4 の自由端部をドア 2 の開閉側の側端部に上記のような手段等を着脱可能に連結するようにしたものである。

【 0 0 2 1 】

その他、本発明の趣旨にもとづいて平行拡張格子などの補助ドアを形成するなど、適宜な変更実施態様が可能であり、マンションや一戸建ての家の玄関ドアに限らず、その他のドアにも適用可能である。

【 0 0 2 2 】

【実施例】

図 1 ～図 4 は、本発明のマンション等の玄関ドアの一実施例を示すものである。補助ドア 4 をアルミ材や鉄材で 4 0 0 mm 幅とし、周囲の枠体 5 内の上半部にルーバー 6 を一体的に形成し、下半部に 3 0 0 × 2 8 0 mm 角の開閉窓 7 を内側から開閉可能に配設し、両側端部に棒状の軸支部 8、9 を補助ドア 4 の高さのほぼ 2 分の 1 として内装するとともに、図 3 のように軸支部 8、9 の内側端に係脱レバー 1 5 に突き出し、引っ込め自在にリンク接続したものである。

【 0 0 2 3 】

そして、この補助ドア 4 を両側端の上下の軸支部 8、9 を板状としたドア 2 の内側面の上下に配設した断面コ字状のスライドガイド 1 2、1 3 とドア開口枠 3 の開閉側の内側の係止用軸受部 1 0、1 1 にそれぞれ嵌装し、ドア 2 の開閉に対応してドア 2 とドア開口枠 3 との間に補助ドア 4 が仕切りとして位置するようにしている。なお、補助ドア 4 の中程部を円弧状の切欠部 1 7 として、ドア 2 のノブ 1 6 に衝突しないようにして円滑に開閉できるようにしている。

【 0 0 2 4 】

また、図 4 (a)、(b) のように補助ドア 4 にドア 2 の施錠部 1 9 を挟持してロック状態とするロック具 2 0 を摺動自在に配設し、ドア 2 の施錠具 1 8 のピッキング防止をはかれるようにしたものである。

【 0 0 2 5 】

そのため、不意の宅配や訪問販売者等が来て、施錠を解除してドア 2 を開

けなければならなくなっても、図1(a)のようにドア2とドア開口枠3との間に補助ドア4が仕切りとして位置し、かつ補助ドア4のルーバー6を介して室外を十分に視認することができ、また来訪者との会話も聞き取れ、不意をつかれることなく、冷静に判断して対応でき、防犯に対処することができる。

【0026】

また、補助ドア4が不必要な場合には、係脱レバー15を操作すると、軸支部8、9を引っ込めるようにできて係止用軸受部10、11から解除でき、補助ドア4をドア1側の係止部に係止したりして、ドア2を従来のように開閉するようにできる。

【0027】

さらに、補助ドア4のロック具20でドア2の施錠部19をロック状態にできて、ピッキング防止に対処することもでき、一層の防犯に対処することができる。

【0028】

図5(a)、(b)は、本発明の他の実施例で、前実施例の補助ドア4のスライドガイド12、13をドア開口枠3の内側の側壁23に配設したものである。このようにしても、前記のように防犯等に対処できる。

【0029】

また、図6(a)～(c)は、本発明のさらに他の実施例を示すものである。本実施例では、補助ドア4の上下部にスライドガイド12、13を設け、ドア開口枠3側に軸支部8、9をスライドガイド12、13に対抗して係脱可能に配設したものである。本実施例のように補助ドア4にスライドガイド12、13を装着して軸支部8、9に係合させるようにして行うこともできるものである。

【0030】

また、図7(a)、(b)は、本発明のさらに他の実施例を示すものである。本実施例では、補助ドア4を折り畳み可能に形成して、その両側端部の上下の軸支部8、9をドア2の開閉側の側端部、ドア開口枠3の内側部の上下に配設した係止用軸受部10、11に装着するようにしたものである。本実施例に

あつては、スライドガイドが必要でなくなったり、簡単な補助ドアの構成にできる。

【0031】

図8は、本発明のさらに他の実施例を示すもので、補助ドア4をロールシャッターのように短冊材を接合してフレキシブルな構造とし、巻回してドア開口枠3の内側部に縦状に配設し、この補助ドア4の自由端部をドア2の開閉側の側端部に着脱可能に連結するようにしたものである。このように補助ドアとしては、一枚状、折り畳み状、ロール状、さらに平行伸縮リンク状のものなど、需要者の好みにより適宜に対応するようにでき、かつドアに合わせた適宜なファッショナブルなデザインとすることができるものである。

【0032】

【発明の効果】

以上のように本発明にあつては、不意の宅配や訪問販売者等が来てドアを開けなければならなくなっても、ドアとドア開口枠との間に補助ドアが仕切りとして位置し、かつ補助ドアの格子の間を介して室外を十分に視認することができ、不意をつかれることなく、冷静に判断して対応でき、防犯に対処することができる。また、ドアを開けてことによって、来訪者の声を正確に聞き取れるようにでき、さらに既存のドア装置にも容易に適用することもできる。

【0033】

特に、補助ドアの両側端部をドアの一側端部とドア開口枠の一側端部にそれぞれ回転可能に連結するとともに、補助ドアの一側端部をドアの開閉に対応して開閉可能にドアの一側端部またはドア開口枠の一側端部に摺動可能に配設することによって、ドアとドア開口枠との間に補助ドアを仕切りとして位置するようにできる。

【0034】

また、補助ドアを折り畳み可能に形成して、この補助ドアの両側端部をドアとドア開口枠の一側端部にそれぞれ回転可能に連結することによって、スライドガイドを必要でなくなつて、より簡単な補助ドアの構成にできる。

【0035】

また、補助ドアの一側端部をドアの一側端部またはドア開口枠の一側端部に着脱可能に配設することによって、補助ドアが不必要な場合には、係脱レバー等を操作して補助ドアをドア側に係止したりしてドアを従来のように開閉するようにできる。さらに、補助ドアの幅を宅配便等の配送物の大きさよりもやや広く形成し、この補助ドアの一部に荷受け用の開閉窓を開閉可能に配設することによって、ドアとドア開口枠との間に補助ドアが仕切りとして位置しても、補助ドアに設けた開閉窓を開閉して配送物を受け取ることができる、より防犯に対処することができる。

【 0 0 3 6 】

さらにまた、ドアの施錠具のピッキングを防止するために、ドアの施錠具をロック状態とするロック具を補助ドアに配設することによって、補助ドアを介してドアの施錠具をピッキングされるのを防止することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の一実施例の玄関ドア装置の説明用斜視図（a）と内面図（b）、

【図 2】

同上の開閉説明用の平断面図、

【図 3】

同上の補助ドアの軸支部の係脱説明用図、

【図 4】

同上のドアの施錠具のピッキング防止説明図（a）、（b）、

【図 5】

同上の他の実施例の説明用平断面図（a）、（b）、

【図 6】

同上のさらに他の実施例の内面図（a）、開閉説明用平断面（b）、（c）

【図 7】

同上のさらに他の実施例の説明用平断面図（a）、（b）、

【図 8】

同上のさらに他の実施例の説明用平断面図。

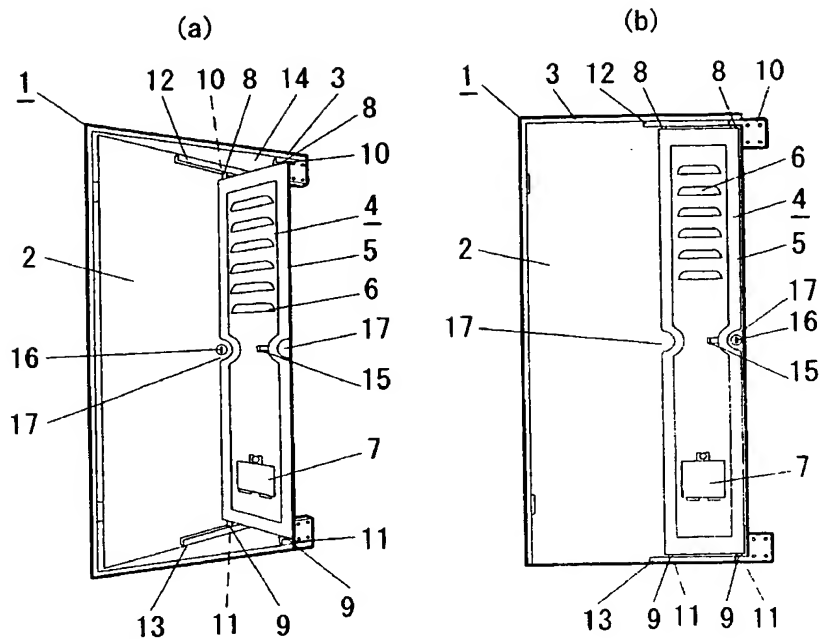
【符号の説明】

1…防犯用ドア装置	2…ドア	3…ドア開口枠
4…補助ドア	6…格子	7…開閉窓
8、9…軸支部	10、11…係止用軸受部	12、13…スライドガイド
14…開口部	19…施錠具	20…ロック具

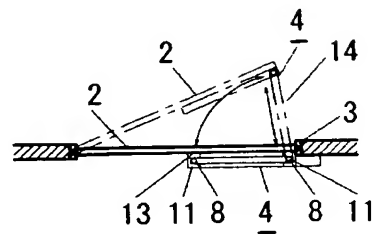
【書類名】

図 面

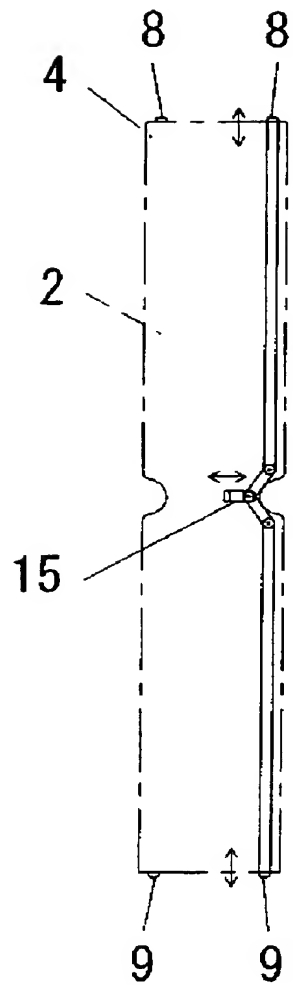
【図 1】



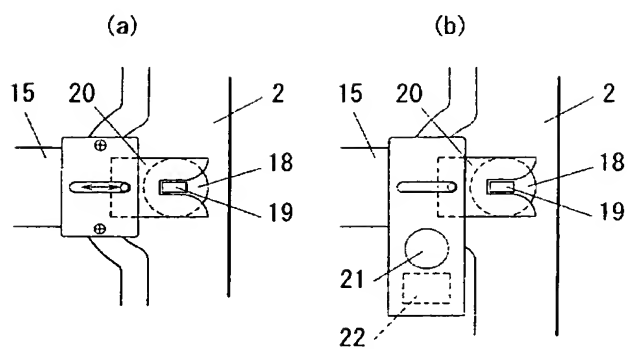
【図 2】



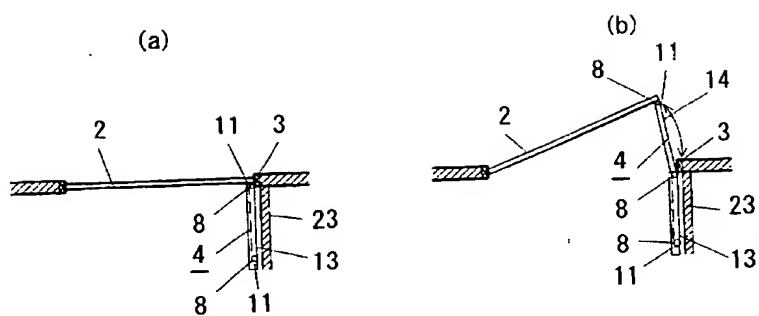
【図 3】



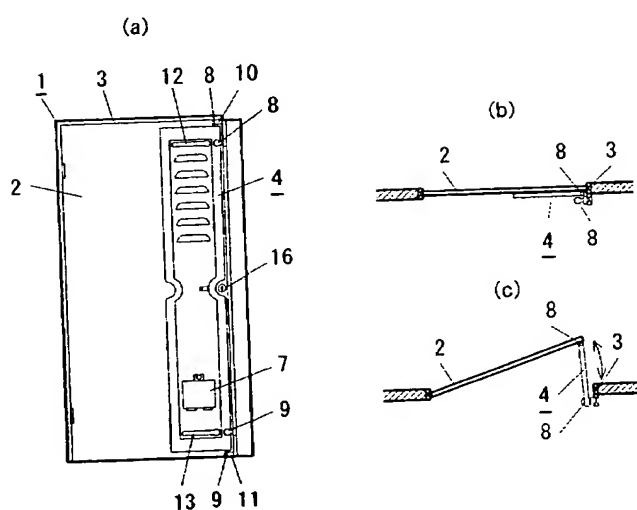
【図 4】



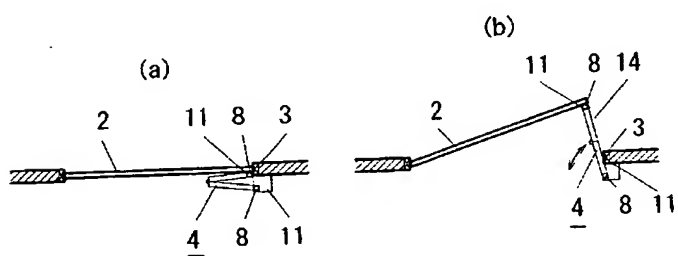
【図 5】



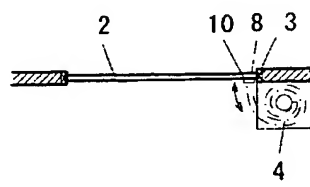
【図 6】



【図 7】



【図 8】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 マンション、その他の玄関ドア等のドアの開閉について、不意の訪問者等からの防犯に対処することにある。

【解決手段】 施錠具を装着してドア 2 をドア開口枠 3 の側端側に向かって開閉自在に配設した玄関ドア等のドア装置 1 であって、上記ドア 2 の開閉側の内側に所定の狭幅の補助ドア 4 の一側端部を連結するとともに、ドア開口枠 3 の開閉側の側端の内側部に補助ドア 4 の他側端部を連結して、ドア 2 を開くときにドア 2 とドア開口枠 3 との間の開口部 1 4 に補助ドア 4 が仕切りとなったリンク接続状態でドアが開くようにしている。そしてまた、室内側から室外を視認できるように上記補助ドア 4 を格子戸状等に形成したものである。

【選択図】 図 1

特願 2 0 0 3 - 1 1 1 1 6 9

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[5 0 3 1 4 2 9 9 1]

1. 変更年月日

2 0 0 3 年 4 月 1 6 日

[変更理由]

新規登録

住 所

兵庫県神戸市北区泉台 2 丁目 2 番地の 1 1 - 6 0 2 号

氏 名

ブランデ株式会社